

## 南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会（外部有識者会議）議事録概要

---

日時：令和2年1月21日

場所：杉並区職員会館

出席者 ・南伊豆町生涯活躍のまち推進協議会委員（大原会長・鳥山副会長・松沼委員） ・杉並区（地方創生担当） ・南伊豆町（企画課地方創生室）

### 議事概要

- 資料説明（事務局）
- 委員からの意見
  - サービス付き高齢者向け住宅は作らないという考えか
    - ・現計画の期間では想定できないが将来的には可能性がないとも言えない。
  - 今後、地方創生はどのような方向に進むとらえているか
    - ・生涯活躍のまちについては、本町を含めたいくつかの地域で取り組んでおり、国及び他の地域とも情報交換を行っている。新たな方向性としては、基本的な部分ではこれまでと変わらないが、簡単に言うと多様化してきているという印象。基本的に生涯活躍できる地域づくり、環境づくりを進め、必要に応じて、サ高住を含めた移住者向けの住居整備についても進めるようなイメージで良いと考えている。本町の計画では、新たなサ高住整備の部分が空き家活用に変更されることとなる。
  - 以前、大森彌先生との話の中では、国のほうでも広域行政への展開が強く打ち出されているという印象を受けたが、現在どのような方向で動いているとらえているか
    - ・地方制度調査会の中で検討されていると認識している。町としては、県が中心となって賀茂地域で進めているこう季連携会議の中で広域的な取組について検討している。本取組に関連する事項としては、地域包括ケア体制の構築について議題として挙がっている状況
  - 計画の変更について、町の考え方としてはどうなのか
    - ・病院跡地の取得については、時間的な面、金額的な面、安全対策の面から、現時点においては断念し、本計画の中では取り組まないこととした。新たな拠点整備の要否については少し時間をかけて検討していく必要があると考えている。
  - 跡地活用があったので「温泉大学」としてきていたが、弓ヶ浜温泉の活用自体が難しいのではないか

- ・報道にもあったように、弓ヶ浜の温泉は下賀茂地区から引湯しており、管の老朽化が原因で湯量が低下しており、今後でなくなってしまう恐れもあるとのこと。町としても何らかの対策が必要ではないかと考える。
- 弓ヶ浜地区を切り捨ててしまうような形にならないか
  - ・地域に対してもそのようなイメージとならないようにしっかりと説明していく必要があるととらえている。
- これまで取り組んできた弓ヶ浜地区への配慮が必要なのではないかと考える。
  - ・地域に対して、特にこれまで深くかかわってきていただいた人たちに対する説明は重要だと考えている。
- 病院跡地を取得しないことは了解した
  - ・いくつかの理由から、現時点での取得は断念することとなった。
- 杉並区との関係やエクレシアとの関係はどうなるのか
  - ・杉並区との交流、それを基礎として整備した特養であるエクレシア南伊豆については、これまでと同様に特別な関係を保っていきたいと考えている。エクレシア南伊豆をハブとした杉並区民との交流についても一層強化していきたい。
- 今後、病院跡地をそのままにしておくことはできないと思う
  - ・当面は一部事務組合側の解体スケジュールによって動くと考えているが、事務局から聞く話では、解体は少し遅れる可能性があるとのこと。解体後は更地になって、当面は一組が管理していくこととなるが、将来的に町としてそのままにしておくことはできないのではないかと考える。
- 下賀茂地域への拠点整備はなかなかイメージできない。やはり居心地の良い弓ヶ浜地区での展開が良いと思う
  - ・土地の広さや立地を考えても、他の地域ではこのような計画は成立しないと考える。
- 杉並区健康学園跡地や弓ヶ浜クラブの活用のためにも病院跡地の活用は今後課題となるのではないかと考える。
  - ・杉並区有地や杉並区の施設との相乗効果を期待していた。町としても当然だが、杉並区としても隣地の広大な土地の今後の使い方については気になる場所だと考える。前にもご説明したように、町として、最終的に活用する方法を考えていく必要があると考える。
- この先の事業展開を考えても、拠点的なものが必要となってくるのではないかと考える
  - ・現計画の中からは一旦削らざるを得ないが、生涯活躍のまちづくりが進む中で、必要に応じた検討がなされると考える。
- 拠点整備計画の削除によって、事業のよりどころがなくなってしまうよ

うにも思われるがどうか

- 拠点というハードがあるか無いかでは計画の進捗の見え方が大きく変わってくる。やはりハード整備が行われると事業としては進んでいる印象が大きく、ソフト事業だけではなかなか進んでいない印象となってしまう可能性が高い。しかし、ハードありきではないので、今後の計画推進の中で、必要に応じて検討していくこととしたい。
- 伊豆縦貫道の開通によっても地域の状況に変化が生じるので、もっと長期的な視点も必要なのではないか
  - 伊豆縦貫道の全面開通はまだ先になるが、一部開通している状況や、オリンピック、パラリンピックの影響もあり、人の流れは変わってきていると感じている。
- 町全体での展開という部分においては肯定的にとらえられる
  - そもそも、拠点を整備したうえで、町全体で取り組んでいく事業構想だったこともあり、既に全町での取り組みが進んでいる。さらに町全体を巻き込んでいくことが重要だと考える。
- 弓ヶ浜地区を否定して、下賀茂地区中心の事業になっているように見えるが、そのような考えか
  - 弓ヶ浜地区での事業展開を否定しているわけではなく、また、下賀茂地区だけで取り組んでいくものでもない。町全体で進めていきたいと考えている。
- 「浜」の重要性、弓ヶ浜の必要性は高いと思う
  - 拠点整備を予定していた場所は、弓ヶ浜にも近く、開けていてすがすがしい印象があった。拠点が必要となった時には同地の活用も含めて検討していくことが望ましいと考える。
- 交流人口についてはどうとらえているか
  - 町の主要産業は観光であり、混交交流客の増加は町の産業振興に大きな影響を与える。今後においては観光交流とあわせて地域の魅力を高めることで、もう少し深い交流も推進していきたい。
- 自然の活用による交流人口の拡大は想定できないか
  - 町の観光資源は自然に起因するものが多い。これからも自然を活用しあわせて地域での暮らしや南伊豆町の魅力を伝えていく必要があると考えている。
- 杉並区との関係性も重要と考えるがいかがか
  - 杉並区とはこれまで以上に関係を深めていきたいと考えている。また、住民どおしの結びつきや交流をもっと推進していきたい。
- 今後（将来）の拠点整備の可能性についてはどこかで触れたい

- ・検討する。
- 空間的な表現がどこにもなくなってしまっており、やることの実態が見えなくなっている
  - ・先ほども御説明したように、ハード整備が行われると事業としては進んでいる印象が大きく、ソフト事業だけではなかなか進んでいない印象となってしまう可能性が高い。しかし、ハードありきではないので、今後の計画推進の中で、必要に応じて検討していくこととしたい。
- 令和2年度の主な事業と事業費はどうか
  - ・事業全体の推進を図ること、生涯学習の取組として位置付けている「南伊豆暮らし図鑑」の充実と事業化を進めること、サテライトオフィスやワーケーション誘致なども含めた仕事づくりや雇用の場づくりを進めること、健康づくり事業や地域包括ケアを推進するとともに、大きな課題となっている移動支援については、モデル事業に取り組むこと、本事業の運営を行っていくことを想定している「まちづくり法人」の立ち上げに向けた取り組みを行うことなどとしており、これまで想定していたハード事業については取組から削除することとした。総事業費としては、11,800千円を想定している。
- 台湾などとの国際的な交流人口の受け入れは計画上出てこないがどうか
  - ・これまで、別の取組としてとらえていた。現在、台湾からの教育旅行の受け入れ、町の子どもたちの台湾への交流訪問などの取り組みを考えると、本事業との親和性が高いと感じる。
- 事業展開が見えるような図面も欲しい
  - ・計画の中に現在進めている事業や、活動の拠点地域特性などがわかるような図面の添付を検討する。
- 活用できる空き家の位置関係の地理的な表示などもあるといい
  - ・計画の中に現在進めている事業や、活動の拠点地域特性などがわかるような図面の添付を検討する。
- 事業計画の概要の部分に将来的なことも入れたい
  - ・検討する。
- 杉並区との連携によりできたエクレシア南伊豆の活用も考えるべき
  - ・エクレシア南伊豆については、これまでと同様に特別な関係を保っていきたいと考えている。エクレシア南伊豆をハブとした杉並区民との交流についても一層強化していきたい。なお、本取組の中では、エクレシア南伊豆の位置付けはトトも重要だと考えている。
- まちづくり法人の方向性や可能性はどうか
  - ・当初想定していた住居の賃貸を含めた不動産収入があまり見込めなくな

っており、収入源の確保が課題となると考える。ただし、本事業は町だけで進めていくものではなく、地域との適切な連携が必要でそのハブとなるような組織も重要だと考えている。そのためにもまちづくり法人の設立による事業展開を進めたい。

○設定したK P Iについて、達成できていない項目については、病院跡地を取得しない以上困難であることは理解できる。K P I変更も同様の理由でやむを得ないのではないか。

・地域再生計画においては、K P Iの2項目について変更を行いたい。なお、推進計画では取組ごとの観点からの目標を掲載したい。また、町内への移住者については、活用可能な空き家等の状況も含めて目標設定をしたが、活用資源の発掘も含め上方修正していけるよう取り組みたい。

○交流人口、関係人口についての指標はないのか

・交流人口については観光交流客数の指標などがあるが、ここで述べている交流人口はもう少し深いつながりを求めたい。また、関係人口については、その定義づけをどうするかによってとらえ方が変わってくる。いずれも大事な要素ではあるので、もう少し検討していく。

○関係人口の指標を設けるべき

・関係人口については、その定義づけをどうするかによってとらえ方が変わってくる。どのような人たちをここでいう関係人口としていくか、それをどう図るかを含めて検討する。

○高齢者の活躍や自己実現に関する記述が必要

・生涯活躍のまちの基本的な考え方の一つだと考えている。推進計画の中でも触れていきたい。

○病院跡地の土壌汚染処理、建物解体のスケジュールはどうなっているか

・別添資料のとおりだが、遅れることが想定されている。

○推進計画の調整、協議会の開催は想定しているか

・推進計画の内容について、本日のご意見を踏まえて調整し、2月末くらいを目安に委員の皆様にお集まりいただきご説明していきたい。

○事業がかなり縮小されている感がある

・現実的には、ハード事業が削除されているので、事業費の面、効果の面では縮小されている感は否めない。

○まちづくり法人の収益性が薄くなるので、まちづくり法人の経営も難しいのではないか

・その通りだと考える。まちづくり法人の立ち上げについては経営的な観点も含め、早急に、しっかりと検討していきたい。

○終了 (17時10分)